

リスク部会報（第 16 号）

2025 年 9 月発行

はじめに

リスク部会報第 16 号をお届けいたします。

2017 年 9 月に当部会は設置され、約 8 年が経過しました。約 300 名の部会員に参加いただき、活発な活動を行っています。これまでに、原子力学会春の年会および秋の大会における企画セッション、セミナー、ワークショップの開催、国際会議の開催協力、学会他部会、他学会との連携活動、研究専門委員会の開催、部会「奨励賞」の設立と授与、連載講座、ウィークリーウェビナーの開催を行ってきました。

2022 年にロードマップ「GX 実現に向けた基本方針」がまとめられ、2025 年 2 月には第 7 次エネルギー基本計画が閣議決定され、原子力の活用がうたわれています。次世代革新炉の開発・建設に應えるためにリスク部会は何ができるか？リスク部会の皆様と共に考えていきたいと考えています。

今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

目次

- (1) 「日本原子力学会 2025 年春の年会」第 16 回全体会議の報告
- (2) 「日本原子力学会 2025 年春の年会」企画セッションの報告
- (3) リスク部会賞（奨励賞）の授与について
- (4) ASRAM2025 特集：ニュースレター（第 8 号）発行予定
- (5) リスク部会・原子力安全部会「安全目標検討合同WG」2024 年度活動経過報告書について
- (6) 令和 6 年度リスク部会運営体制（役員名簿）
- (7) 今後の活動
- (8) 編集後記

(1) 「日本原子力学会2025年秋の大会」第16回全体会議の報告

<http://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/meeting.html>

2025年春の年会でリスク部会の全体会議が開催されました。以下に会議録を示します。

日時： 2025年3月14日（金）12:10～12:55

場所： オンライン（F会場 Zoom ルーム6）

全体会議資料：<https://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/documents/meeting/M20250314.pdf>

議事：

1) 開会挨拶：成宮部会長

- 部会長よりリスク部会の活動に対する御礼及び、安全目標検討合同WGの活動について説明があった。特に質疑はなかった。
- 同WGは、リスク部会と原子力安全部会の合同WGとして発足したものであり、これまでに6回のWGを開催。
- WGでの活動内容をまとめた活動経過報告書では、今後の安全目標の議論に資する論点を整理しており、以下の章構成でまとめ、部会HPに公開する予定。

1. 本WGの活動趣旨

2. 論点

2.1 安全目標の目的

2.2 安全目標の構成

2.3 安全目標の適用

2.4 社会とのコミュニケーション

3. 海外動向

4. 今後の検討

付録1：WG名簿

付録2：WG会合日時

付録3：安全目標関係の文献

2) 2025年度の重点取り組み事項：成宮部会長

- 2025年度の重点取り組み事項として、「ASRAM2025の開催協力」、「リスク情報活用の推進のための取組」、「PRAテキスト整備の推進」を行っていく旨の説明があった。

3) 運営委員の変更：渡邊委員

- 2025 年度運営委員の紹介があった。今回は委員の変更はなく、決議事項なし。

4) 2024 年度下期活動実績／2025 年度活動計画：各委員長

- 各小委員会より、2024 年度下半期活動実績／2025 年度活動計画について報告があった。
- 総務小委員会より、秋の大会での第 15 回全体会議及び第 4 回～第 6 回リスク部会幹事会の開催について報告があった。
- 財務小委員会より、2024 年度の予算執行実績及び 2025 年度予算計画（決議事項）について報告があった。内容について異論はなく了承された。
- 企画・研究小委員会報告に併せてリスク部会奨励賞の表彰式があり、受賞者として、山本将寛氏（日本原燃）、高野優氏（東京都市大学）の 2 名が発表され、両名にご挨拶をいただいた。
- 国際小委員会より、2024 年度下半期の活動実績として、PSAM17&ASRAM2024 を開催した旨説明があった。また、2025 年度以降の計画として PSA2025 米国開催への協力、ASRAM2025 タイ開催への協力を予定している旨説明があった。
- 広報・出版小委員会より、2024 年度下半期の活動実績として、リスク部会報（9 月、3 月）の発行、ニュースレターの発行に加えて、「リスク情報活用に関するアンケートのまとめ」の公開について説明があった。2025 年度以降としては、同様に部会報を計画していること、リスク情報の活用に係るご意見募集中である旨説明があった。

(2) 「日本原子力学会2025年春の年会」企画セッションの報告

<http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/seminar.html>

2024 年秋の大会でリスク部会主催の企画セッションが開催されました。以下に概要を示します。発表に使用された資料や議論の詳細など、部会の HP に情報がありますので、ぜひアクセスください。2025 年秋の大会においても部会の企画セッションを行いますので、こちらもぜひご参加ください。

セッション名：PSAM17/ASRAM2024 で得られた知見

日時： 2025 年 3 月 14 日（金）13:00～14:30

場所： オンライン（F 会場 Zoom ルーム 6）

座長： 丸山 結（JAEA）

PSAM と ASRAM の歴史や概要、仙台で開催された PSAM17&ASRAM2024 の主要講演内容が紹介された。講演では、リスク情報活用型意思決定（RIDM）の進展、米国 INL の RISA、EPRI による PRA の重要性、リスクコミュニケーション事例、AI の原子力分野応用、福島事故関連調査、規制体系整備などが報告された。また、関西電力の RIDM 実践事例や、HRA データ収集に関する国際ワークショップの取り組み（HTO プロジェクト、Rancor シミュレータ活用、IDHEAS-ECA モデル等）も共有された。質疑では、リスク文化や PRA で評価できないリスク、HRA データの評価方法などが議論された。

【内容】

- ① PSAM と ASRAM の歴史と概要（白井 孝治：電中研）
- ② Plenary, Keynote の概要（高田 孝：東京大学）
- ③ 関西電力の RIDM の紹介（生野 健一郎：関西電力）
- ④ HRA Data ワークショップの概要（桐本 順広：電中研）

（敬称略）

(3) リスク部会賞（奨励賞）の授与について

(企画・研究小委員会)

リスク部会では、原子力施設のリスク評価分野における若手研究者・技術者（40 才以下）の奨励を目的として、本分野の研究・技術開発等にかかる活動の成果を「秋の大会」または「春の年会」で発表し、その内容が学術的・技術的に優れていると認められる発表に対してリスク部会賞（奨励賞）を授与しています。8回目となる「2024 年春の年会」での発表においては、リスク部会長を委員長とした選考小委員会による厳正な審査に基づいて、以下の 2 名に奨励賞を授与することを決定いたしました。

氏名 山本 将寛

所属 日本原燃

受賞内容 六ヶ所再処理施設における複数貯槽・複数事象のリスク評価手法の整備(4)被ばく影響を考慮した重要度の評価方法の検討

氏名 高野 優

所属 東京都市大学

受賞内容 AI によるフラジリティ曲線の効率的作成

(敬称略)

リスク評価分野の更なる発展のためには、リスク評価に必要な多様な技術を開発するとともに、リスク評価から得られる情報を的確に分析し、安全性の向上等に効果的に活用する人材が不可欠です。リスク部会の若手部会員の皆様、原子力学会の学生会員の皆様には、専門知をより一層深め広げるためにも、研究・技術開発等にかかる活動の成果を積極的に学会の場で発表し、学会に集まる多くの専門家と議論することをお願いいたします。

(4) ASRAM2025 特集：ニュースレター（第8号）発行予定

<https://risk-div-aesi.sakura.ne.jp/newsletter.html>

ASRAM2025 が 2025 年 8 月 27～29 日にタイのパタヤで開催されました。

リスク部会報の執筆時点では、ニュースレターは未発行のため、次号で紹介いたします。

以上

(5) リスク部会・原子力安全部会「安全目標検討合同WG」 2024 年度活動経過報告書について

<https://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/safetygoalWG.html>

日本原子力学会リスク部会・原子力安全部会の「安全目標検討合同 WG」では、2024 年度の活動経過をまとめた報告書を発行しました。本 WG は、原子力分野における「安全目標」のあり方について、国内外の動向や過去の議論を整理し、今後の制度設計や社会的合意形成に資する基礎資料の作成を目的としています。

本報告書では、まず日本における安全目標の議論の歴史を振り返り、福島第一原発事故以降の動きや、原子力規制委員会・学会・事業者等による継続的な検討の経緯を整理しています。さらに、米国・英国・フランス・フィンランド・スウェーデン・韓国など主要国の安全目標の制度や運用状況を比較し、各国の特徴や課題を明らかにしています。

報告書の中心では、「安全目標の目的」「構成」「適用」「社会とのコミュニケーション」など、今後の議論や制度設計に必要な論点を体系的にまとめています。たとえば、安全目標を定めることの意義やメリット、継続的な安全性向上との関係、リスク評価の信頼性や不確かさへの対応、社会的合意やリスクコミュニケーションの重要性など、多角的な視点から整理されています。

本報告書は、原子力分野におけるリスク管理や安全文化の発展に資する基礎資料として、幅広い関係者の皆様にご活用いただければ幸いです。

以上

(6) 令和6年度リスク部会運営体制（役員名簿）

2025年 4月 7日

（敬称略）

役職・委員会	氏名（所属）	役割
部会長	成宮 祥介（東京大学）	・部会及び小委員会を統括 ・原子力学会代議員
副部会長	白井 孝治（電中研） 丸山 結（JAEA）	・部会長の補佐
幹事	各小委員会の委員長	
総務・財務 小委員会	◎ 渡邊 学（電中研） ○ 廣川 直機（日立GE） ○ 沼田 健（関電） ○ 小野寺 将規（MRI）	（総務） ・事務 ・部会の開催等 ・他の小委員会が所掌しない事項 ・部会等運営委員会委員 （財務） ・部会の予算策定、管理及び決算
企画・研究 小委員会	◎ 丸山 結（JAEA） ○ 氏田 博士（環境安全学研究所） ○ 河合 勝則（MHI NSI） ○ 張 承賢（北海道大学） ○ 今井 俊一（東電HD）	（企画・戦略） ・部会の活動方針・戦略案の作成 ・活動方針・戦略に従った企画・執行 （研究） ・研究を活性化させるための活動の企画・遂行に関する事項 （人材育成） ・人材の育成、研究者・技術者の裾野を広げるための企画、活動
国際 小委員会	◎ 菅谷 淳子（JANUS） ○ 白井 孝治（電中研） ○ 高田 孝（東京大学） ○ 木村 謙仁（エネ経研）	・国際会議等の開催 ・国際協力窓口 ・国外学協会との交流
広報・出版 小委員会	◎ 牟田 仁（東京都市大学） ○ 蛭沢 勝三（元 電中研） ○ 倉本 孝弘（NEL） ○ 竹田 敏（大阪大学） ○ 當房 拓朗（東芝ESS）	（広報） ・部会報、ニュースレターの発行 ・ホームページの作成・管理 （出版・編集） ・論文、論文集、教材などの出版・編集 ・編集委員会幹事会委員
	◎：委員長、○：副委員長	

(7) 今後の活動

リスク部会が主催・共催している講演会、企画セッション、学術会議等、直近のイベントをご紹介します。

日本原子力学会「2025年秋の大会」 企画セッション／部会・連絡セッション（リスク部会主催）

[\[1L_PL\] リスク情報を活用した運転中保全\(OLM\)の導入 ―取組みの現状― | 2025年秋の大会 | Confit](#)

日時：2025年9月10日（水） 13:00 ～ 14:30

場所：I会場(AIM3F E展示場)

座長：成宮 祥介(東大)

- (1) 運転中保全ガイドラインの概要 渡邊 学(電中研)
- (2) 伊方発電所におけるオンラインメンテナンス導入に向けた取り組みについて 高木 宏樹(四国電力)
- (3) OLMに適用するリスク評価技術について 香川 明彦(四国電力)
- (4) 原子力規制庁におけるOLMに関する議論について 村上 玄(規制庁)

(8) 編集後記

リスク部会の第16号の部会報をお届け致します。

リスク部会報は、半年に一度、その期間での活動内容の報告・紹介につき、広報・出版小委員会にてとりまとめて発行をしています。記事の作成につきまして、お忙しい中で御協力いただいた方々、大変ありがとうございました。

今後とも、様々な活動を通してリスクに関する情報の発信を行っていきたいと考えています。時事のトピックに関しては、部会報に加えて、ニュースレターの発行も随時行っていければと考えております。

部会報、ニュースレターへの原稿等は随時受け付けておりますので、リスク部会員の皆様からの寄稿もお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

部会報、ニュースレター、及び部会HPへのご意見、ご要望、ご質問等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : toiawase@risk-aesj.sakura.ne.jp

リスク部会のHP: http://risk-div-aesj.sakura.ne.jp/index.html

原子力学会員の方は、どなたでもリスク部会にご入会いただけます。リスク部会への入会をご希望の方は、原子力学会Web サイトの部会入会ページ (<http://www.aesj.net/activity/divisions>) から行えます。